

4月19日に本校3年生を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。今年度は国語・数学で実施され、テストと同時に家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されました。生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）

主として知識を問う〔A問題〕、主として活用を問う〔B問題〕共に全国平均を下回る結果となっていますが、単元の種類によっては全国平均を上回るものもあり、少しずつではありますが全国平均に近づきつつあります。基礎的・基本的内容の定着と、身につけた知識・技能を活用する力の育成の両方に取り組む必要があります。家庭学習での予習、授業での知識・技能の活用（グループワークや発表・表現）、そして既習内容の復習・反復練習、応用と、学校と家庭の両方で学習を充実させ、資質・能力の向上につなげる必要があります。

国語科より

A問題、B問題とも全体的に全国平均に達していない領域が多く、2つを比較すると特にB問題で課題が残る結果となっています。

A問題、B問題ともに「読む能力」の問題は全国平均に近い結果でしたが、「書く能力」の問題では全国平均に比べて課題が残る結果となっています。設問別にみると、A問題の「文章を読み分け、要旨を捉える問題」や「必要な情報を読み取る問題」は全国平均に近い結果でした。一方、B問題の「資料の活用能力をみる問題」や「資料から物事を類推する力を見る問題」では課題が残る結果となっています。

授業や家庭学習において、分からないことが出てきたときには辞書等のツールを使用して調べ、資料活用能力や言語を活用する力を身につけるように取り組む必要があります。

数学科より

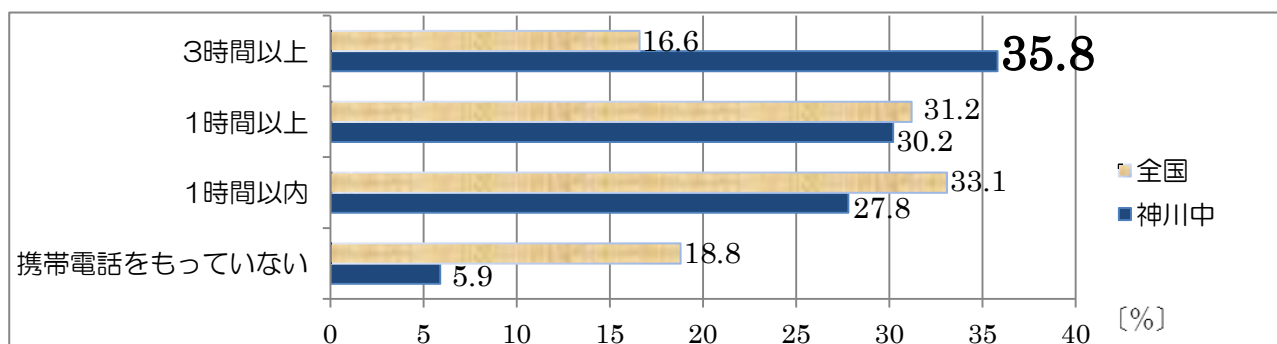
A問題、B問題とも全体的に全国平均に達していない領域が多く、課題が残る結果となっています。

A問題では、「図形に成り立つ性質の逆の事柄を表す問題」は全国平均を上回っており、「多角形の外角の和の性質を読み取る問題」や、「反比例を表した事象を選ぶ問題」、「一次関数の式から変化の割合を求める問題」は全国平均に近い結果となっています。一方、「等式の性質を用いて式を変形する問題」や「方程式や比例式、一次関数の変域を求める問題」では、課題が残る結果となっています。B問題では、「三角形の合同条件を用いて証明する問題」に課題が残ります。

授業や家庭学習において、筋道を立てて仮定から結論を導き出す力や数学的に説明する力を身につけるように取り組む必要があります。

生徒質問紙調査から ①

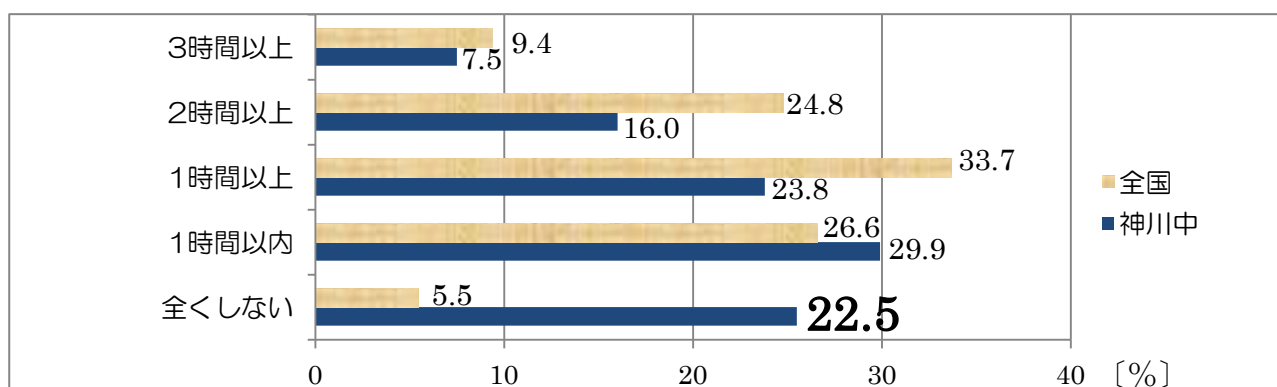
平日 1 日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。



上記の通り、本校の生徒は携帯電話の所持率が高く、1日3時間以上使用している生徒が全国平均の2倍を超えています。また、7割近い生徒が1日1時間以上使用していると回答しています。「テレビ・DVDを視聴する時間」「スマホ・携帯ゲームをする時間」の質問にも同様の結果が得られています。

生徒質問紙調査から ②

学校以外に平日 1 日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。(学習塾や家庭教師の時間を含む)



「家庭での学習時間」は全国平均を大きく下回っています。特に、家庭学習を『全くしない』生徒が5人に1人と、全国平均に比べて4倍以上という結果となっています。

全体を通した本校の成果と課題

昨年度に引き続き、本校ではすべての教科・授業で『明確なめあての提示』と『まとめや振り返りでの再確認』を行い、校区3小学校と連携して授業規律の徹底に取り組んでいます。さらに、テスト前学習会・土曜学習会では自主学習を主として「基礎的・基本的内容の確認・反復」を行っています。また、学習確認プログラムを利用した「予習」「確認テスト」「復習」の学習サイクルを年間計画に取り入れています。このような取組は、少しずつではありますが結果となって表れています。

しかしながら、まだまだ課題は多く、今回の全国学力学習状況調査の結果と生徒の回答から見た現在の状況をしっかりと受け止め、生徒の資質・能力向上につなげるために授業の質を高め、課題を克服できるよう努めます。また、ご家庭でも、お子たちが学習に向かいやすい環境づくりをしていただき、『主体的学び』に向かうような声かけ・助言をしていただきますようにご協力よろしくお願いします。